



学校紹介 ～その54～

☞ 阪神丹有地区生活体験発表大会

9月13日(土)に伊丹市スワンホールで実施された「阪神丹有地区高等学校定時制生徒生活体験発表大会」に4年B組の石川廉君、4年C組の山下一成君が出場し、山下君は惜しくも入賞を逃しましたが、石川君が優秀賞を受賞、県大会に出場することが決定いたしました。



県大会は10月12日(日)に尼崎市中小企業センターで行われます。結果については10月25日号で報告する予定です。

勇者の旅立ち

山下 一成



ぼくは今年、四年生になりました。思い返せば、色々あった高校生活でした。それも終わりを迎えると思うと、

言いようのない寂しさを感じます。

一年生、始まりの時。伊丹市立高校に入学したぼくは、正直逃げ出したい気持ちでした。小・中と、まともに行ってなかったぼくにとって、高校は宇宙人の集まりのように見えました。緊張して、まともな受け答えなんてできっこありません。「どっちが宇宙人だ？」という状況でした。いつまでたっても不安は小さくならず、休みが積み重なって、二年生の時、ついに留年となってしまいました。

そして、二回目の二年生。クラスメイトが変わり、学校の場所も行基町から池尻に変わりました。阪神昆陽高校との新しい学校生活が始まったのです。相変わらず宇宙人なぼくを

先生方は優しく見守り、接してくれました。嬉しいと思う反面、その優しさに対して、うまく気持ちや思いを伝えられないことに、申し訳なさやもどかしさを感じていました。けれど、周囲の人々の優しさはぼくにとって学校に行く上での心の支えとなっていました。おかげで、無事、進級することができました。

そんなぼくが三年生になり、クラスメイトに誘われ、演劇部に入ることになりました。正直、絶対無理だと思いました。みんなの前で演じるなんて、今までの自分じゃ考えられなかったからです。しかし、「まずは仮入部でいいから。」と言われて、しつしつ誘いを受けることにしました。最初は発声すら難しく「やめちゃおうかな」と思いました。けれど、舞台に向け、みんなで支え合いながら、時にはふざけ、笑い合う…そんな日々を過ごすうちに、入部して良かったと思えるようになりました。

そして、文化祭。宇宙人なぼくが勇者役として舞台に立つことになりました。逃げ出す算段をたてているうちに本番が始まってしまい、ぼくは諦めて舞台に立ち、必死に勇者を演じました。セリフを失敗したり、立ち位置を間違えたり、完璧とはいかなかったけれど、部活の仲間や先生方が、「良かったよ!」と言ってくれました。そのことがとても嬉しくて、すがすがしい気持ちで文化祭を終えることができました。この経験はぼくの高校生活一番の思い出です。文化祭以降、ぼくは「勇者」と呼ばれるようになりました。

勇者となったぼくにとって、思い出深い伊丹市立高校ですが、来年三月、ぼくの学年の卒業を最後に閉校してしまいます。最初、そのことを聞いた時は、「最後の卒業生って何かカッコイイな」くらいに思っていて、あまり寂しいとは思っていませんでした。しかし、卒業学年として進路の準備が具体的にになって来るなか、卒業した先輩が学校に来て、進学先や職場の話をしてくれる機会がありました。その時ふと「ぼくらにはこうして来る場所がなくなるんだな。」と思い、初めて寂しさを実感しました。

進路の決定時期ということもあり、今まで以上に先生方と接する機会が増えました。こうして自分の将来の為に頑張ってくれている先生方も閉校すると、遠い存在になってしまうのかと思いました。本音を言うと就職という言葉を聞くたびに「雲になりたい、空気になりたい、ぼくは自称勇者にしかなれないんじゃないか」と思いました。現実から目を背けていたのです。けれど、「これが最後の頑張りどころだ」と思うと、「少しでもいいから自分のできることをやろう」という気持ちになってきました。

四年生のぼくはこれまでよりも多くのことを経験しています。

まずは生徒会に立候補しました。人前に出るのは、舞台上に出ていることもあり、慣れていたつもりでしたが、立候補の演説のとき、ぼくはド緊張してしまい、かみかみの演説を披露してしまいました。演技で出るより何倍も恥ずかしく、もう一生やりたくないなと思いました。

『地域と学校』という授業を取って、畑仕事も体験しています。キュウリやインゲン、カボチャ、サツマイモなど、色々な作物を育て、収穫もしました。何も考えずに半ズボンで行った時は虫に刺されまくり、自然の恐ろしさを学びました。

校外での就職活動ガイダンスにも参加しました。他校の初めて会う生徒達とグループを組み、インタビューや模擬面接をしました。これまで他校の生徒と一緒にになにかするといった機会がなかったので、緊張しました。

どれもこれも、ぼくにとっては内容の濃い体験で、新鮮で楽しいものでした。が、その反面、出来事が多過ぎて、頭がパンクしそうになるときもありました。しかし、あと半年もない学校生活です。思う存分楽しまないと損だと思います。残りの学校生活もパンクしそうながらいがちょうど良いと思って、楽しみたいと思います。

思い返せば、ぼくの高校生活は、色々な人に支えられてきました。進級のこと、部活のこと、仕事のこと、その全てでぼくは支えられ助けられてきました。一人だと投げ出していただろろうと思います。一人では経験できなかったことに、みんなが可能性を作ってくれました。宇宙人だったぼくが、進級でき、勇者になり、いま、就職活動をしています。一年生のときは考えられなかったことです。

ぼくは今、皆に助けられながら、社会に出るための土台作り奮闘しています。卒業後のことがまだ具体的に感じられず、将来の夢もフワフワしていますが、これまでの経験もあって、ちょっとくらいは固い土台になってきたかなと思います。

就職することは、決めています。将来の夢は見え、まだまだ不安な毎日です。しかし、就職し、元気に飛び立つことが今まで支えてくれた人達への恩返しになると思い頑張っています。

そして、卒業して、この学校を離れてしまっても、ここで得たものを信じて生きていきたいと思っています。



第64回 阪神丹有地区高等学校定時制生徒生活体験発表大会



石川廉君の発表内容については、紙面の都合上次号で紹介いたします。

9月の行事予定



- 9月28日(日) ……全商情報処理検定
(伊丹市立伊丹高等学校)
- 29日(月) ……カウンセリング

10月の行事予定



- 10月 3日(金) ……体育行事
(フィールドアスレチック)
- 6日(月) ……カウンセリング
- 10日(金) ……体育行事予備日
- 12日(日) ……県生活体験発表大会
- 16日(木)
- ~22日(水) ……中間考査
- 20日(月) ……カウンセリング
- 27日(月) ……カウンセリング



編集後記

今日は長袖のカッターシャツで出勤。涼やかな秋風を感じながら池尻小学校の南側、市民農園の前を通りかかると、畑に見慣れない美しい花が。

大ぶりの白い花卉に中央の赤い色。調べてみるとどうもオクラの花のようです。

あまり知られていませんが、果実や野菜の花には美しいものが多くあります。たとえばアーモンドの花は桜にそっくり。カボチャの大きな黄色い花やなすの紫の花などは、思わず見とれてしまうほどです。

手間暇かけて作物を育てていると、実りの前にもこのようなご褒美がもらえる。もちろん結果も重要だけれど、実はその過程でも、私たちはたくさんの「美しいもの」をもらっているのです。

